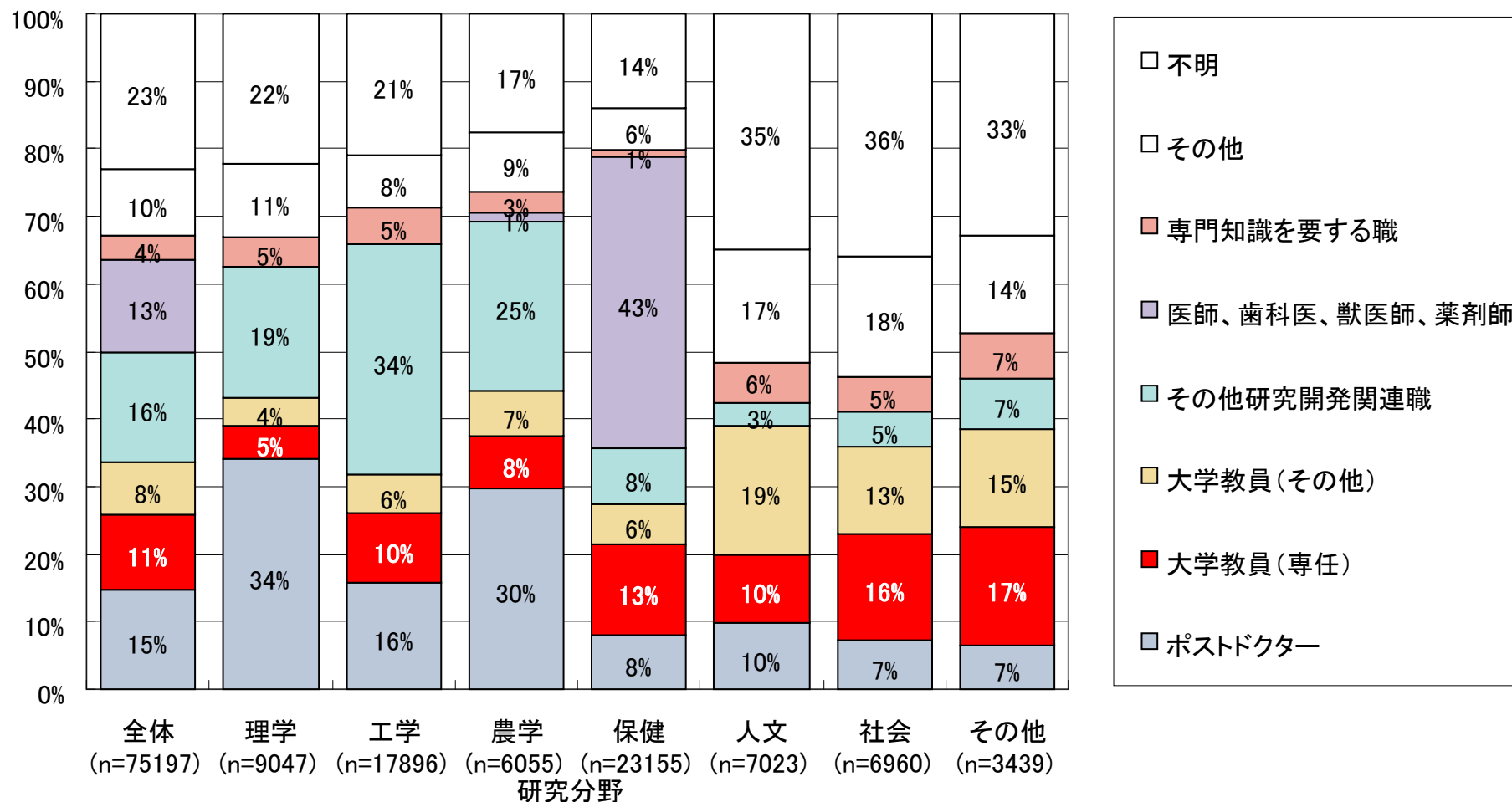


我が国の博士課程修了者の修了直後の職業内訳 (2002-2006年度修了者全体)一分野別

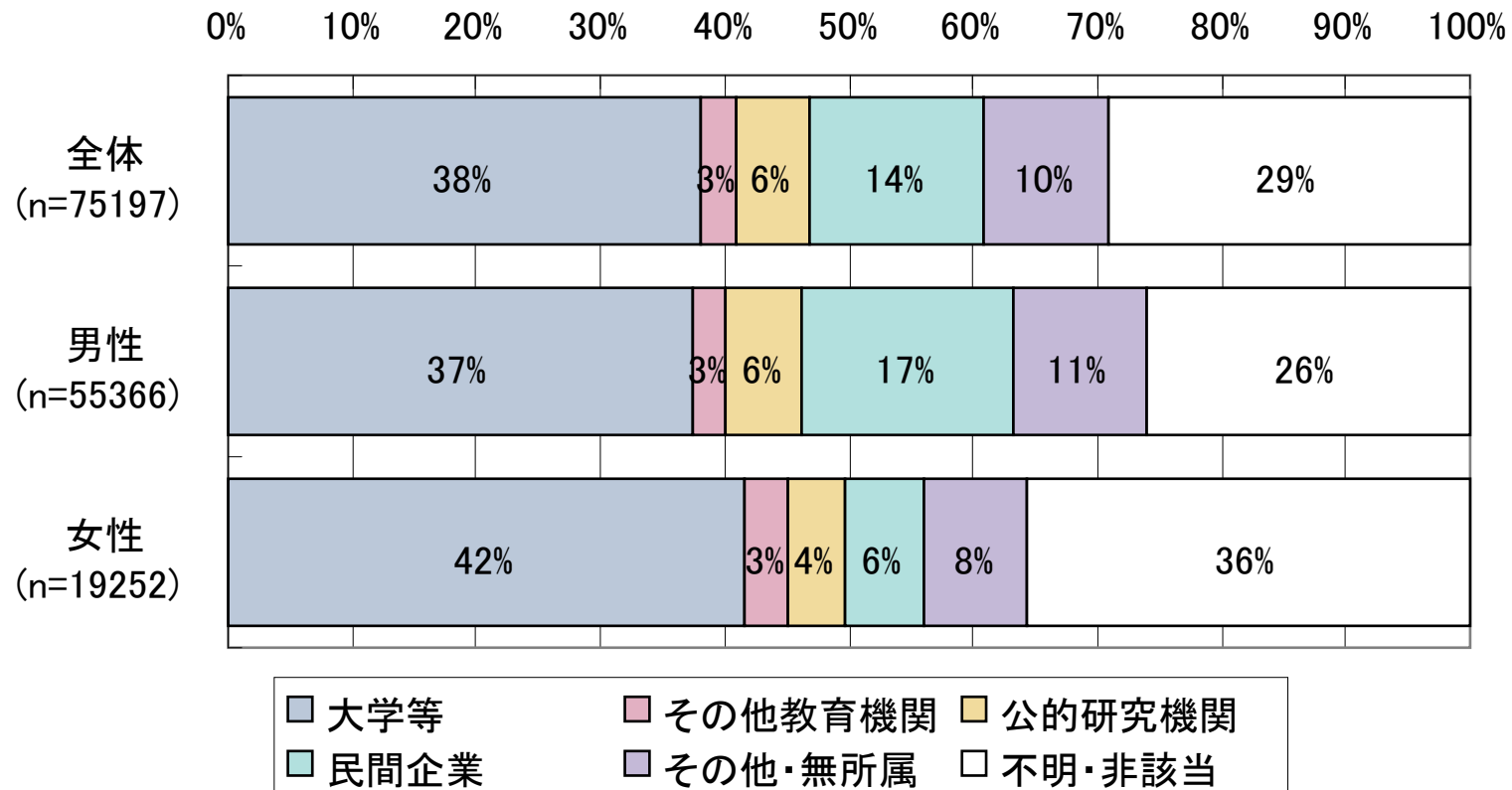
◇研究分野別に見ると、研究開発関連職に就いた者の割合は理学・工学・農学で6割以上と高い。また、ポストドクターに限ってみても、理学・農学の割合が3割前後と高くなっている。



出典:文部科学省科学技術政策研究所「大学院の教育に関する調査:我が国の博士課程修了者進路動向調査編」

No.10-3 我が国の博士課程修了者の修了直後の職業内訳 (2002-2006年度修了者全体)一男女別一

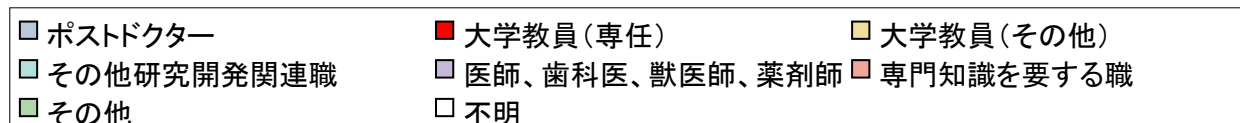
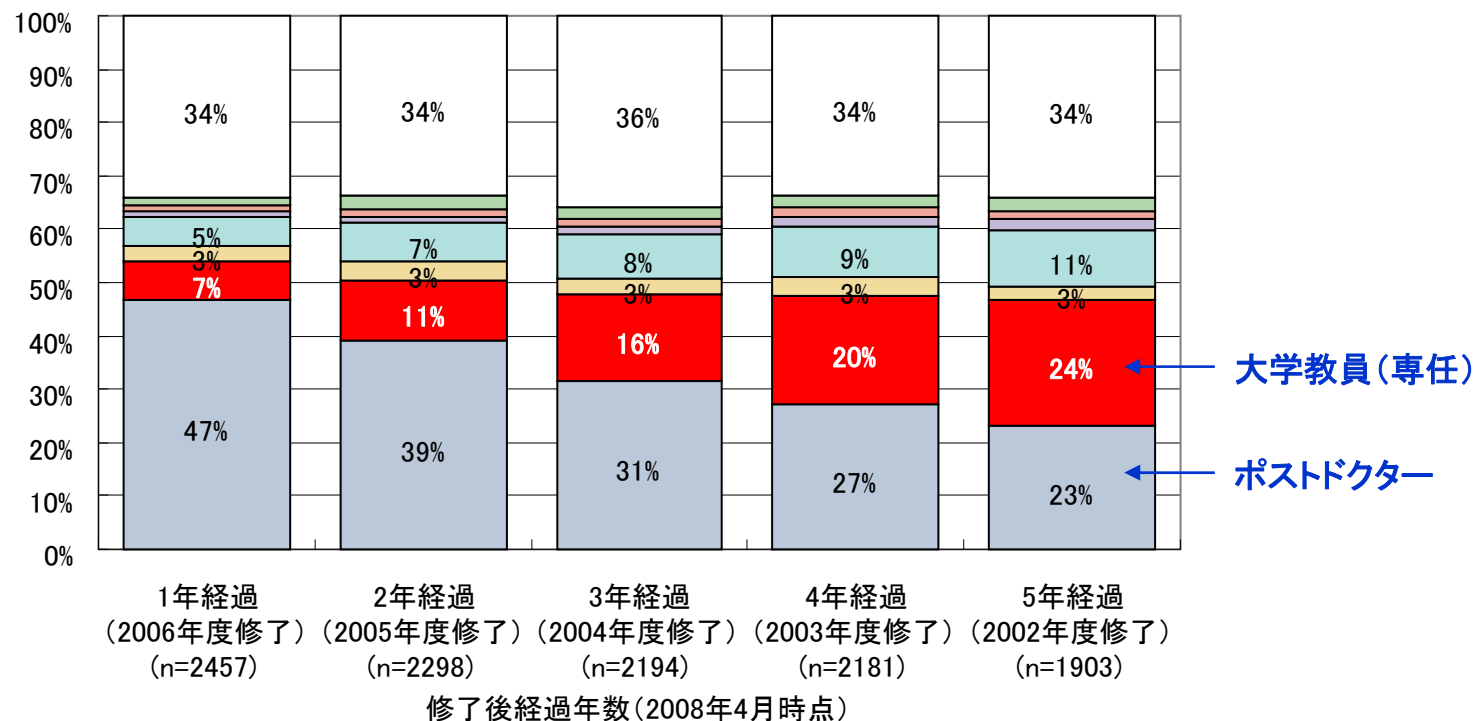
◇博士課程修了直後の所属先で見ると、全体の44%が大学・公的研究機関等の学術研究機関、民間企業が14%となっている。



出典：文部科学省科学技術政策研究所「大学院の教育に関する調査：我が国の博士課程修了者進路動向調査編」

博士課程修了直後にポストドクターとなった者の 2008年4月1日時点の職業

◇博士課程修了直後にポストドクターだった者は、年数の経過とともに、ポストドクター以外の研究開発関連職、特に専任の大学教員職に就く比率が高くなる。



出典：文部科学省科学技術政策研究所「大学院の教育に関する調査：我が国の博士課程修了者進路動向調査編」

転職に関するフェローアンケート 2009年1月

実施機関：2009年11月10日～2009年1月19日

アンケート項目数： 7項目 転職なしの方

21項目 転職1回の方

35項目 転職2回の方

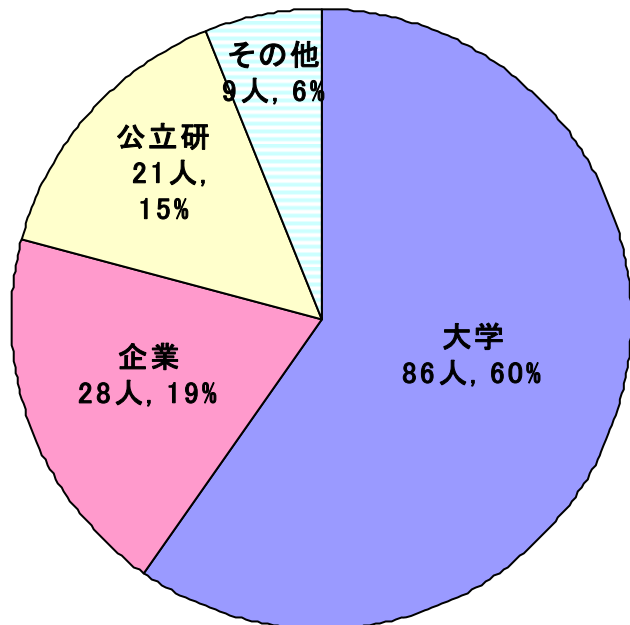
49項目 転職3回の方

対象者：応用物理学会フェロー 159人

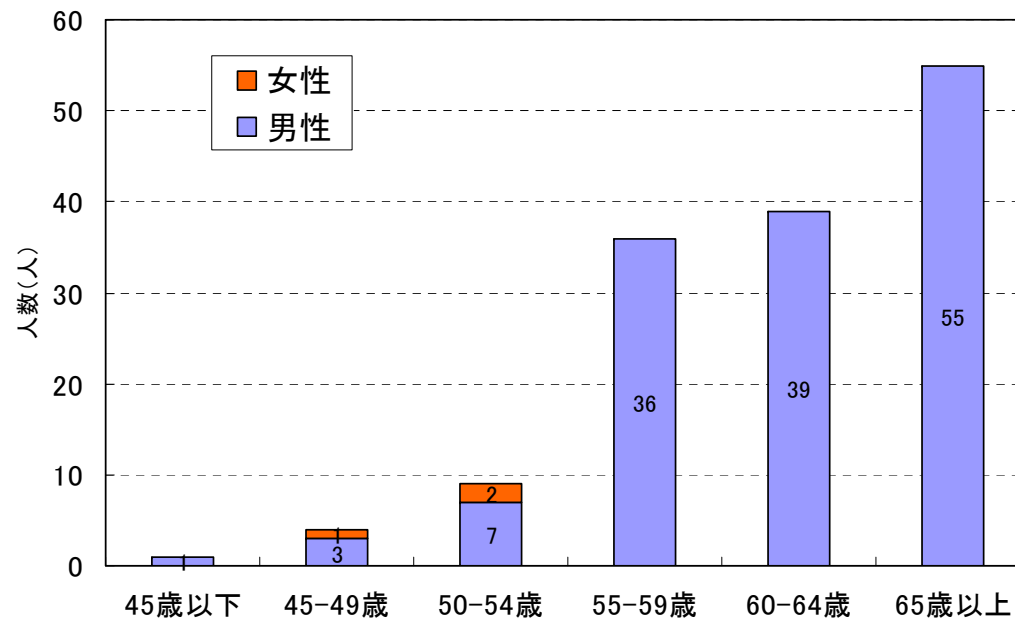
回答率：144人 (91%)

数値は人数

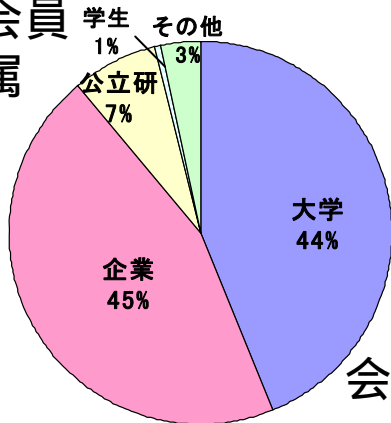
現所属



年齢分布

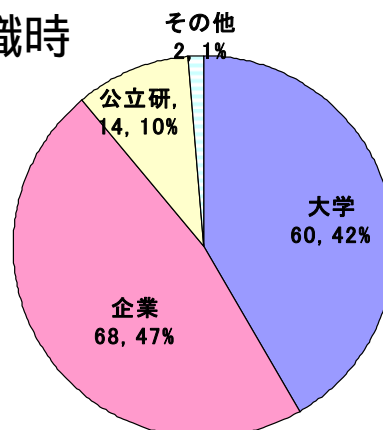


学会員所属



会員数:25,007名
(2008/3 現在)

最初の就職時所属

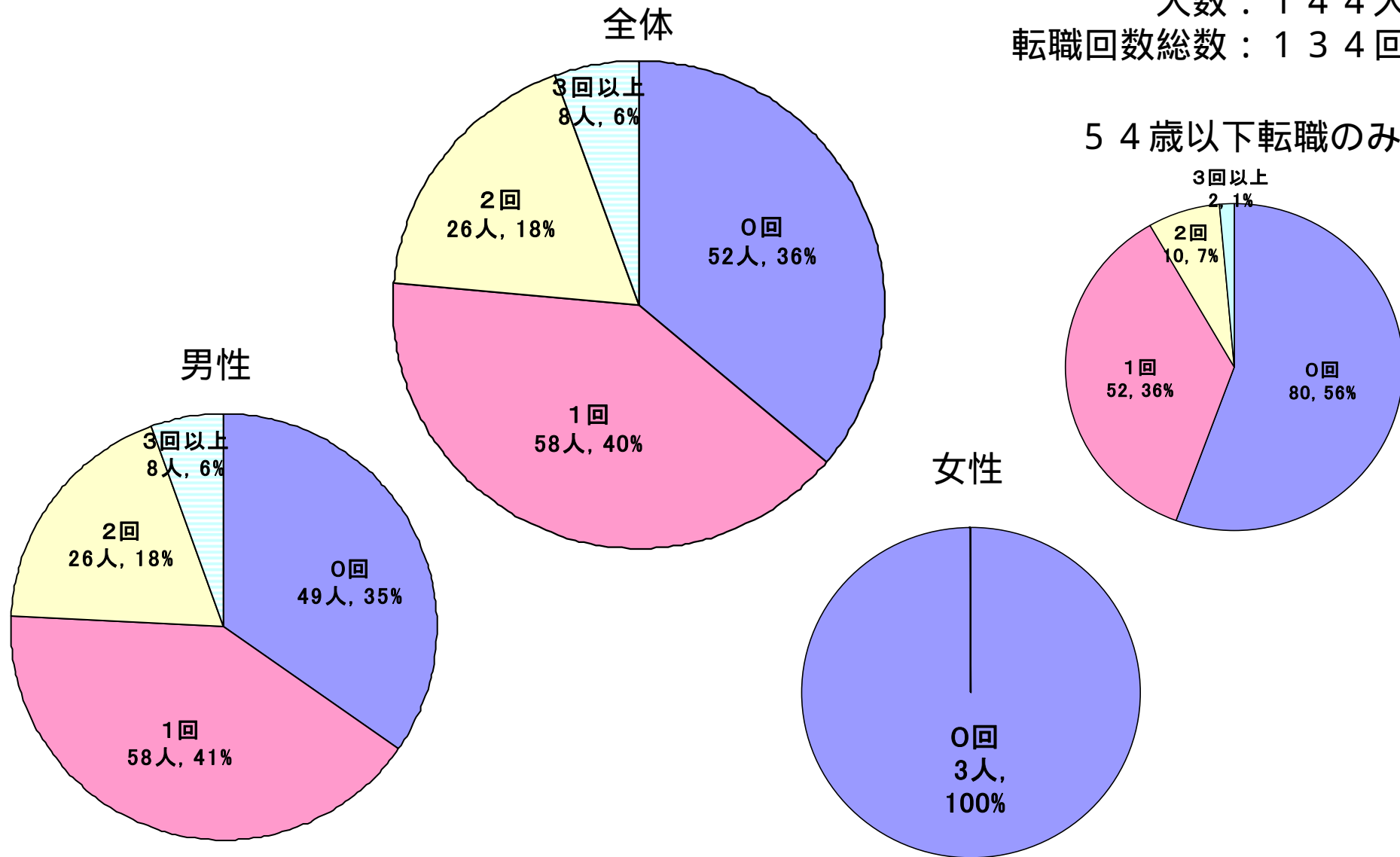


出典: 応用物理学会 人材育成・男女共同参画委員会 産学連携人材交流WG 転職に関するフェローアンケート 2009年1月

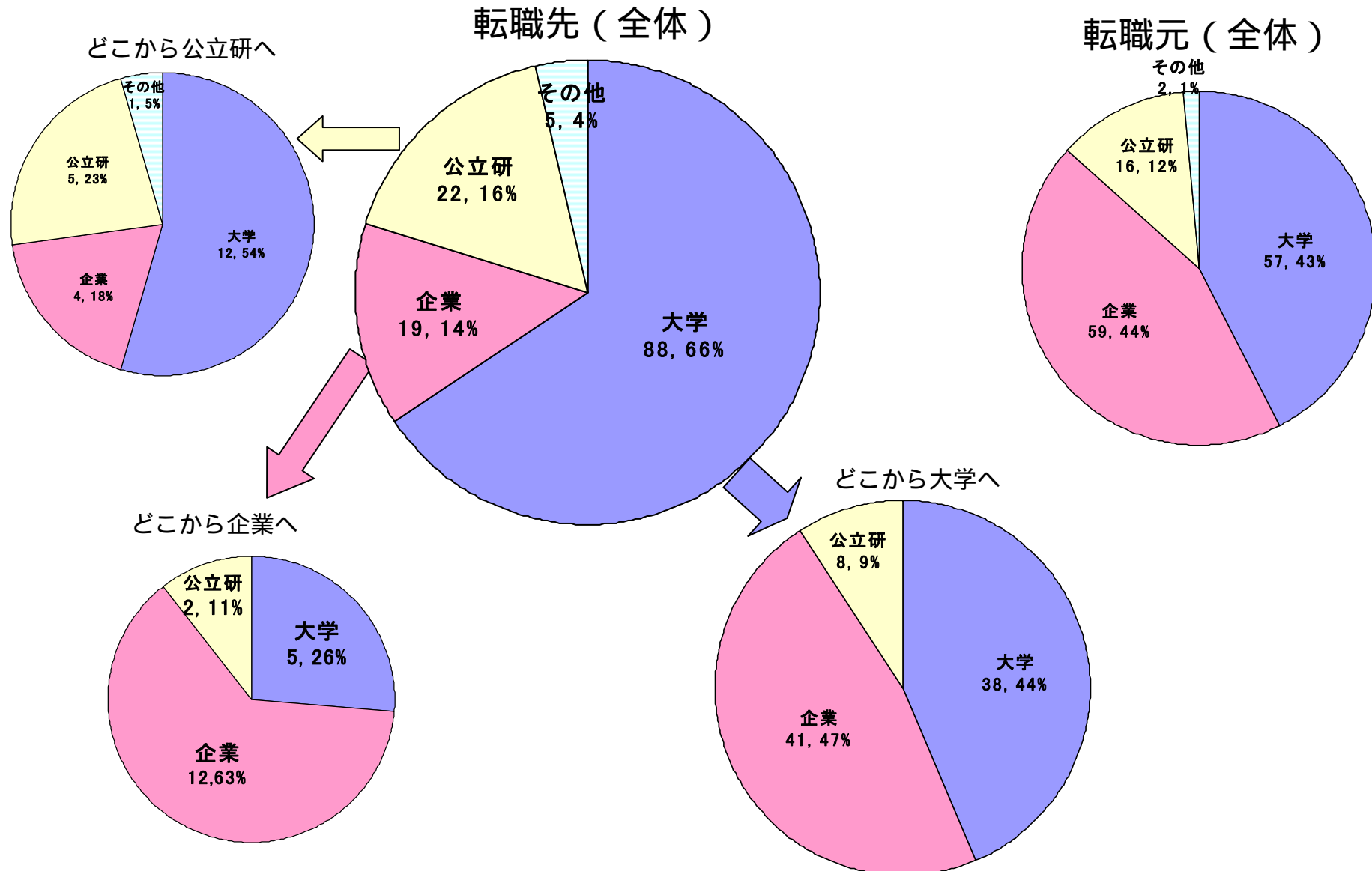
数値は人数

人数：144人
 転職回数総数：134回

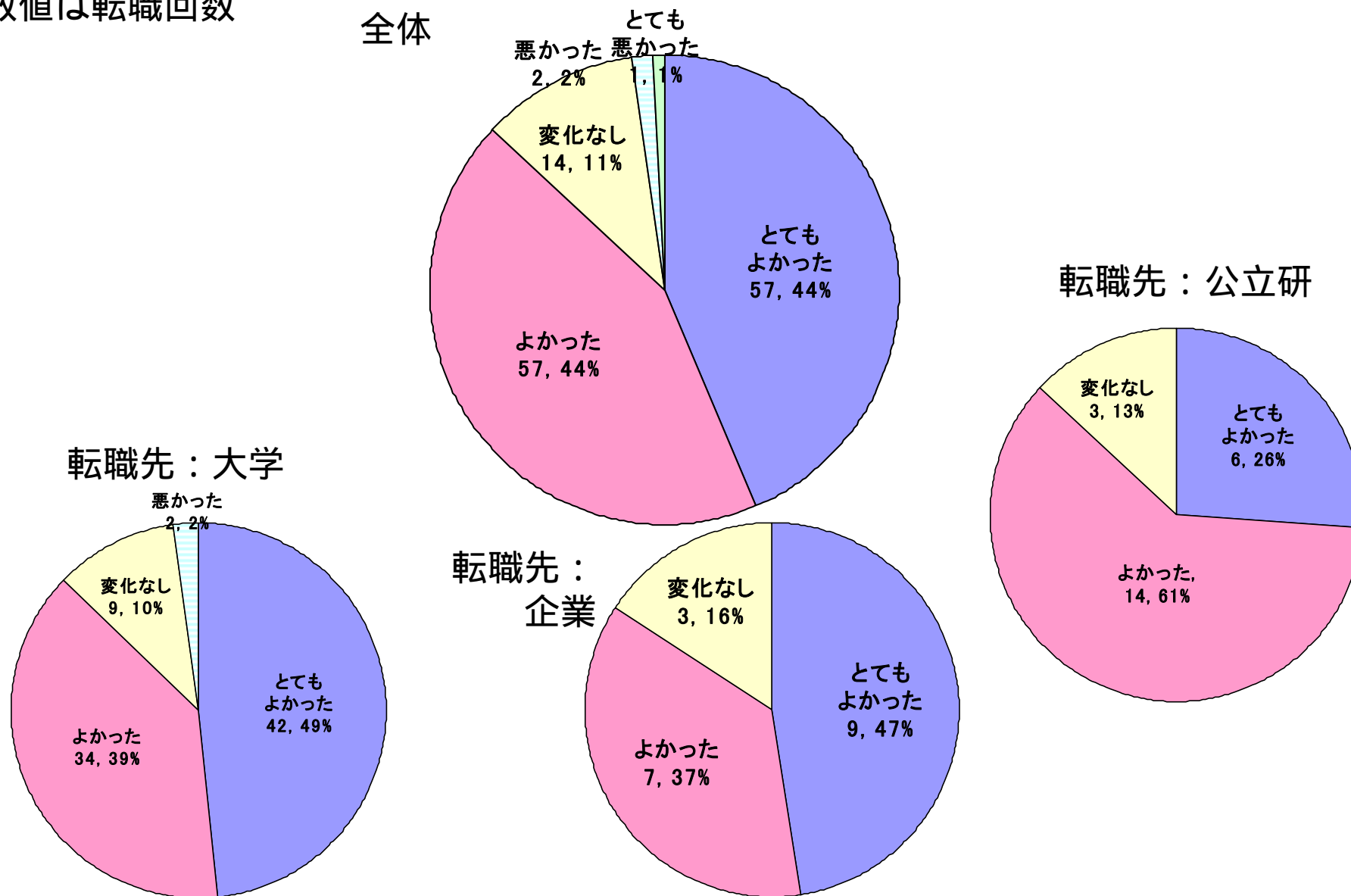
54歳以下転職のみ



数値は転職回数



数値は転職回数



国際農業研究の場で活躍できる若手研究者の人材育成

【ステップ1】

国際農業研究の現場を知る

国際農業研究に従事する夢をもつ

対象者: 35歳までの研究者
大学院生(修士課程以上)、独法研究者等

各CGIARセンターから課題を募集

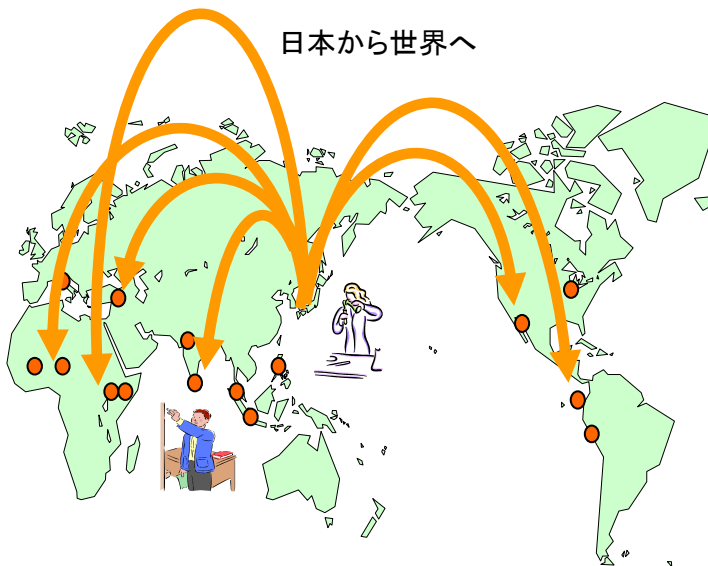
募集課題例

- ・持続性と環境負荷の視点にたった節水イネ栽培の評価(IRRI / フィリピン)
- ・適正な森林事業の開発による生産性と森林保全(CIFOR / インドネシア)
- ・アフリカイネの干ばつ耐性に関する遺伝的生理的研究(WARDA / ベナン)

若手研究者が関心のある課題に応募

10名程度を選抜し、2ヶ月程度派遣

日本から世界へ



CGIAR(国際農業研究協議グループ):
途上国における食料安全保障・貧困削減に貢献することを目的とし、さらに近年、世界規模の問題に取り組む 15の農業研究機関から成立

主なCGIARの成果

- ・最先端の農業科学技術を駆使し、小麦・米など「緑の革命」を可能にした多くの成果を世界に発出。
- ・アフリカ稲(NERICA)や優良タンパク質のトウモロコシ品種を開発。
- ・世界最大の遺伝資源を保管し、生物多様性の保全に貢献

【ステップ2】

国際共同研究の研鑽を積み、研究者としてのスキルアップ

海外の研究機関の研究者と共同研究が出来る能力・国際感覚を養う

対象者: 40歳までの研究者
大学院生(博士号取得者)、独法研究者等

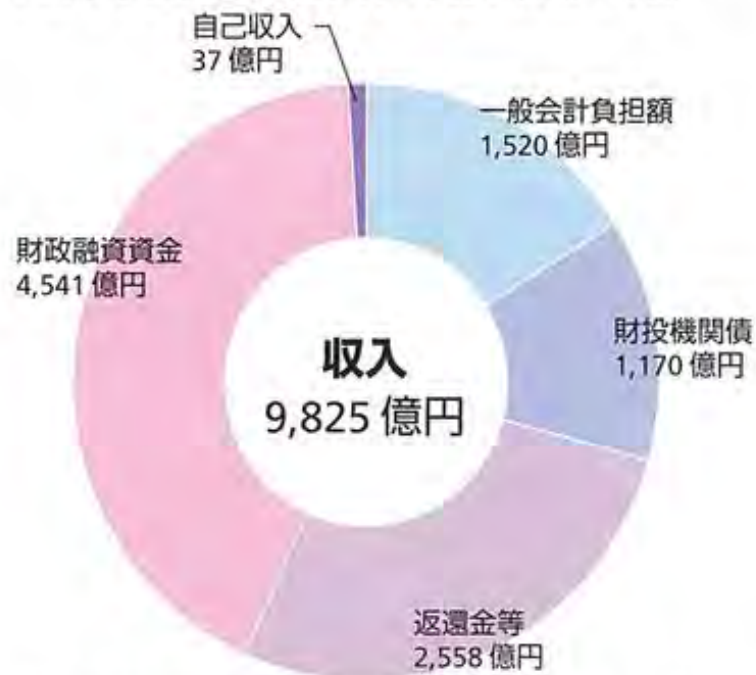
各CGIARセンターから自分の受け入れに対し、承認を得る

本事業に応募

2, 3名程度を選抜し、6ヶ月~24ヶ月程度派遣

※単年度ごとに研究に対する評価を実施

■日本学生支援機構予算の内訳（平成20年度）



◎一般会計負担額は、政府貸付金745億円、高等学校等奨学金事業交付金291億円、利子補給金238億円、返還免除等補助金35億円、運営費交付金193億円、外国人留学生支援事業費補助金18億円です。

(注) 計数は四捨五入の関係で一致しない場合がある。



◎奨学金貸与事業関係には、高等学校等奨学金事業交付金（291億円）が含まれています。